



なぜ“地域協働”などといわれているのでしょうか？

一言でいえば、時代の変化によるものです。少子高齢化が進み、人口や働き手が減ることで財政破綻する「消滅可能性都市」が、20年後には900市町村もあるとされています。ふじみ野市は含まれていませんが、市内の東台小がなくなってしまうことも無関係ではないかもしれません。

また、一昔前は「みんなで子どもたちを見守りましょう」という雰囲気がある自然と地域に存在していました。今では登下校中に知らない人があいさつしてきたら、場合によっては不審者と思われるってしまうような、どこか「あったかくない」物騒な社会になってきてしまったように感じます。

一方で、学校を核とした地域コミュニティにおける人どうしのつながりは、これからの社会にとって非常に重要なものであるとされています。今回岩佐会長から、防災に関するご提案がありました。本会としても、子どもたちが生まれ育ったこの地域を大切に思えるよう、特色ある取り組みのお手伝いをしていけたらと考えています。



第2回「あった会議」が開催されました

6月14日（金）本校にて、第2回あった会議が開催されました。以下、当日の議事録です。

【日時・場所】令和6年6月14日（金）10:00～ 於：亀久保小学校 コミュニティルーム

【学校より】

（1）第1回あった会議の成果とお礼（教頭）

（2）働き方改革と学力向上について（教務主任）

職員からは「家庭の時間や自己研鑽の時間がない」「トイレにも行けない(低学年)」「学年集金等のお金の管理が負担」「人手不足で教室を空けられないので休めない」という声があがっている。

☆解決策として… 短くてできる教材研究や業務改善・デジタル化の活用・ロ座振替の導入 などの意見が。

（3）運動会について（教務主任）

昨年度は9月開催だったが、テントを20張準備するのが大変だったことや熱中症のリスクを考慮し、今年度は10月開催とした。色々なご意見をいただくが、学校として丁寧に説明をしていく。

<質疑応答>

岩佐会長：働き方改革は具体的にどう進める？

教務：「授業」「デジタル化」「休暇」等をテーマに3つの部会に分かれ、教員で話し合いをする予定。

岩佐会長：部会に学校運営協議会委員を入れる機会を設け、外部からの意見を取り入れてはどうか？

また、運動会は今後の異常気象の状況を踏まえ、他校で増えている5月等開催も視野に入れた幅広い検討は？

教務：5月だと1年生が入学したてであることや林間学校との関係で難しい。今後検討していく。

内田委員：10月開催に反対する意見もあるのか？

教頭：10月の土日にグラウンドを使用している団体等との関係や、下のお子さんの運動会との重複。

【協議】

（1）防災キャンプについて（岩佐会長） ⇒資料を抜粋し、裏面に掲載

大規模な地震が30年以内に70%の確率で起こるとされている。

亀久保小の体育館が避難所に指定されていることを前提として、災害時の「共助」がスムーズにできるように、子どもたちが防災について「楽しみながら学べる」機会および地域コミュニティの連携の場を本会で提供したいと考えている。

（2）グループ協議

（1）について、AとBの2グループに分かれて意見交換を行いました。内容は以下のとおりです。

A：岩佐会長の提案を受け、本会として承認するのは良いと思う。ただ参加者の安全面や万が一の事態を考えたときに、本会が主体となって実施するのは、責任の所在を考えても色々問題があるのではないかな。別で実行委員会を設置し、実施に向けて動いていったほうが良いと考える。

B：企画自体は良い。ただ、Aと同意見で実施主体としては難しいと思う。公民館が主体ならできるかもしれない。委員の関わり方としては、「できる人ができることを」という形でどうか。また、9月開催を想定しているが、焦らず計画を練るべきだと思う。地域防災訓練と合わせての実施も考えては？



意見を踏まえ、本会とは別組織である「実行委員会」を立ち上げて進める方向で承認

（3）諸連絡等

・地域協働学校活動について（内山委員より）

・今後の予定及び主な議題について

・次回開催は9月27日（金）10:00～



委員さんの活動紹介！のコーナー（花組）

今年度から地域コーディネーターとしてもご尽力いただいている、内山智子さんを中心に月に1回活動しています。学校にお越しの際は、ぜひ花組の皆様が整備してくださっている花壇をご覧ください。また、気軽にいつでもどなたでも参加できますので、興味のある方は学校へお問い合わせください。



ありがとう



今年度の活動日は、あと8/29・9/12・10/3・11/7・12/5・2/6・3/6です！
今後、オープンチャットを取り入れて参加しやすくしていく予定です！

裏面も
あります

亀久保小学校 学校運営協議会
防災お泊まりキャンプ



企画案.01

私たちの暮らしの中に、大地震や水害などの災害リスクは常に存在します。
いざという時に子どもたちとどうしたらいいのか…。とても切実な問題です。

災害による被害を最小限に抑えるための「**防災の三助**」という取り組みがあります。



この中でも特に重要だと考えるのが「**共助**」です。
ただ、いきなり共助してくださいと言われても戸惑ってしまいますよね。
そのため、災害時の「共助」ができるだけスムーズにできるよう、地域コミュニティの中で
『**体験をしながら防災について学び・考える機会**』を作りたいと思います。

イベント概要

内容	災害時の「共助」や防災への学びにつながるよう、避難生活を楽しみながら疑似体験する
日時(案)	2024年9月28日(土)～29日(日) ※土曜日の午後～日曜日の朝
場所	亀久保小学校体育館
対象	亀久保小学校に通う児童がいる家族および、亀久保小学校の近隣地域住民
人数	20家族程度を想定 ⇒宿泊を必須としなければ参加希望者は増える可能性あり
参加費用	無料 ⇒企画内容によってはワンコイン程度の費用徴収も検討
持ち物	・テントや寝具、着替えなど宿泊に必要な物一式 ・夕食/朝食食材(保存食など)、調理器具 ・ワークショップに必要なもの ⇒企画内容や協賛の有無で変動

「防災ワークショップ」のイメージ

『つくってまもう』| NHK提供

2011年(平成23年)に発生した東日本大震災。「ひとりでも多くの命を守るために何ができるだろう？」
日本中で生みだされたみんなの防災アイデアを集めて、いざという時に役立つ防災動画が制作され、活用できるようになっています。



防災お泊まりキャンプイベント内で使える、食事用の備品や照明を子どもたち中心に
作ってもらう



牛乳パックでスプーンをつくろう



水洗いのいらない食器をつくろう



ペットボトルで照明をつくろう

防災訓練と何が違うのか？

① より踏み込んだ体験を行う

避難生活を疑似体験するなど、知識を得るだけではなく実践的な機会を目指します。

- 避難所での宿泊体験 ※亀久保小学校は地域の避難所に指定されています
- 少しの水しか使えない環境での調理体験
など

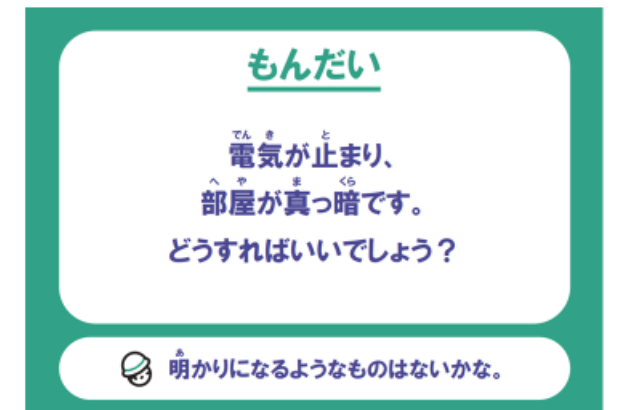
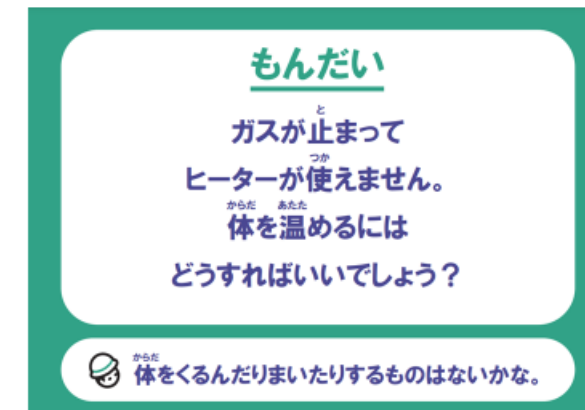
② 子どもたちと楽しみながら学ぶ

「防災訓練は、大切なのはわかるけど、つまらない」
そんな意見があると思います。
そこで、子どもも大人も「楽しめる」要素を盛り込み、訓練ではなく体験の機会として
位置づけ、時には笑い声をあげながらいつの間にか防災について学べる、そんな場を
目指します。

「楽しく学べる防災クイズ」のイメージ

『小学生向けイツモ防災』| 埼玉県&NPO法人プラス・アーツ制作

防災教育教材「小学生向けイツモ防災」は、小学生を対象として「イツモ防災＝いつもの生活の中でできる備え」を、クイズやゲームを通して考え、
学ぶことができる内容になっています。



今後実行委員を募集し、企画実現に向けて動いていく予定です。

また、5月に市内東原小でも似たような取り組みが実施されています。

ご家庭内での防災に対する意識啓発の機会・地域交流の機会の一つとして、
ご参加をご検討していただけますと幸いです。

詳細については、実行委員会から配付される案内をご覧ください。

